

◆ 2019年度活動報告シート ◆

団体名：見沼たんぼくらぶ

22A-38

代表者：会長 新井一裕

URL :

1. 活動が必要とされた状況

見沼たんぼは首都近郊に残された貴重な大規模緑地空間です。さいたま新都心駅や大宮駅から2～3kmという近さにあるにもかかわらず、田んぼや畑、雑木林、河川や見沼代用水路によって作られる田園風景と生き物を育む豊かな自然が現在も残されています。この自然環境豊かな見沼たんぼは次代の子供たちに引き継いで残していく財産です。

当くらぶはこの環境資産を大切に活用しながら見沼たんぼの魅力を一人でも多くの皆さんに知っていただくよう様々な形で発信しています。その事業の一つが農園づくりです。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

平成12年に埼玉県から見沼たんぼ県民ふれあい事業を受託し県民参加による農体験事業を開始、以来令和元年まで継続して受託し見沼ふれあい農園づくり事業を実施。

現在の耕地面積は1号地約2,000㎡、2号地約1,400㎡、3号地約1,200㎡の3か所で合計約4,600㎡。

1号地は京芋、里芋、八つ頭、生姜栽培。会員が毎年4月の種イモの植え付けから11月の収穫まで全8回の農作業。種イモの量は里芋50キロ、生姜40キロ、八つ頭30キロ、京芋10キロ。令和元年は社会福祉法人2団体と福祉活動をしているNPO法人1団体と保育園1の4団体に里芋、八つ頭を寄贈。保育園児は収穫を体験。

2号地は農園体験の秋野菜栽培。県民公募（彩の国だより）で参加者を募集し毎年9月から11月の間に全5回で種まきから収穫までを体験。令和元年は129名が参加、大根、蕪、京菜、春菊、ほうれん草、小松菜などを栽培。

3号地は景観作物とさつま芋栽培。春は菜の花、秋はコスモスの花を咲かせます。春には畑一面に黄色い菜の花が咲き乱れ、見沼たんぼの桜の回廊とあわせて素晴らしい景色が形成されます。令和元年は保育園児が菜の花とコスモスの摘み取り、さつま芋掘りを体験。

3. 活動の成果

見沼ふれあい農園づくりの農園体験や花の摘み取り体験などを通して多くの方に見沼たんぼへの関心と理解を深めていただいています。

今回の助成で購入したマルチ張り機をはじめ、以前の助成で購入した耕耘機、ハンマーナイフ等のお陰で労力及び作業時間の大幅な軽減になっています。

4. 今後に残された課題

農園づくりに携わるスタッフが高齢化してきており、若い後継者の育成が課題。

